

◆ ニュースレター おおば ◆

平成28年3月号

テーマ 『代議制民主主義』

○：「この国の政治はおかしい」と思う、すべての人へ、というオビがついた中公新書、待鳥聡史著、「代議制民主主義」 1 「民意」と「政治家」を問い直す1を読んだ。著者は京都大学大学院法学研究科教授。日本の地方議会では様々な不祥事が続出し、かつて「民主主義の学校」と言われた地方自治の根幹を支えるはずの地方議会は、今や全面的な批判と否定の対象になってしまったかのようだ。議会に対する否定的な評価は地方議会に限らず、国政レベル、つまり国会に対しても有権者の評価は高くなく、また日本に限らず、アメリカでも議会の活動ぶりを積極的に評価する有権者はどの世論調査でも最低水準に低下しており、現在では15パーセント程度に過ぎないという。

○：…先進諸国の場合、議会への批判は、いくつかの代替的あるいは補完的な民主主義の構想を生み出す

している。その一つが熟議民主主義だ。政治家や官僚といった職業的な政策決定者や専門知識を持った人々のみが政策について考えるのではなく、専門知識を持った人々の助言もときに受けながら、時間はかかっても一般の人々が相互に討論や意見交換を行って、納得せずに決定を行うことをいう。これは正面からの議会否定論ではなく、あくまで議会を補完しようというのが基本だ。だが、熟議が現実の政治過程に組み込まれれば、議会の存在意義は大幅に低下すると言われている。

○：有権者が重要な政策課題について直接投票による意思表示を行い、それに基づいた決定がなされるべきだという考え方は古くから存在する。住民投票や国民投票だ。憲法改正の規定は日本にもあるし、国民投票の法的根拠を持つ国はイギリス、イタリア、フランスなど珍しくない。これらは議会の

の存在を全面的に否定しているわけではない。しかし、住民投票の中には有権者の意思を個別の政策判断に直接的に反映させることを目指すものもあり、この場合には議会に対する不信が根底にあるケースもある。

○：さらに本書では、インターネットを全面的に活用することにより、一般有権者が柔軟に政策決定に関与することを追求しようとする「一般意志2.0」という考え方も紹介されている。一般意志とはルソーが「社会契約論」の中で示した概念で、一般意志を「均（なら）されたみんなの望み」という集合知としてとらえ、新たな民主主義論を打ち出している。

○：…これら議会への批判や否定的評価は、共通して、選挙で議員をはじめとする政治家を決め、彼らに政策決定を担わせることへの不信感、あるいは限界の認識を根底に持つ。それは「代議制民主主義

義」への不信だと言い換えることができる。だが不信が妥当なものかどうかを判断するには、そもそも代議制民主主義とは何か、について知らなければならぬ、そして、歴史から、課題から、制度から、それぞれ読み解いているのが本書だ。

○：待鳥氏は、代議制民主主義には、有権者を起点として政治家、官僚へと仕事を委ねる「委任の連鎖」と同時に、官僚から政治家へ、政治家から有権者へ、委ねた人々の期待に応えて説明責任を果たす「責任の連鎖」が存在しており、これら両方向の「委任と責任の連鎖関係」が存在していることが、代議制民主主義であるための必要条件だと言える、とした上で、その前提ともいえる同質性、つまり有権者と政治家は同じ社会の構成員であり、職業は異なっている、いわば仲間として同じ目標や利益を追求できる、という前提が壊れ

ての議会批判ではないか、それは妥当か、として代議制民主主義のあり方と意義を考察している。

○：代議制民主主義において元来、自由主義的要素と、民主主義的要素との間に緊張関係が存在することとか、日本の政治や選挙の変化も突出したのではなく世界的な変化の流れの一部であることとか、本書を読んで視野が広がった気はするのだが、結局のところ、完璧な制度、仕組みは存在しないと言うか、作り得ないと言うか、当たり前だが、それぞれの国、それぞれの地方で考え、追求するしか無いと言うことだ。

○：議会改革の話になると、すぐ定数削減が持ち出される。財政面も含めて現行数は多い、もっと少なくていい、という意見の根底には、議会の質に対する不満が見え隠れする。我が故郷・美幌町は以前は28人だったのが何度か改定され今や14人だ。議員のなり手

がない、という町村もあるし、議員報酬が少ないから若手が出づらいい、という声もある。私は思いついて報酬を上げて定数を5人くらいに絞ってはどうか、と以前は考えていた。ただ、多様な住民の声を十分すくい上げられるか、また、選挙に強い5人が選ばれるだけで質の向上にはつながらないのではないか、といった点で躊躇があった。

○：一方、国政選挙の一票の格差の問題もある。格差が二倍を超えると違憲だという。格差があつて当然とは思わないが、人口比率で都会の議員ばかり増えていくのが本当にいいことなのか、疑問だ。代議制民主主義をどうグレードアップするか、市町村レベル、道・県議会レベル、国政レベル、それぞれ広汎な議論が必要だ。